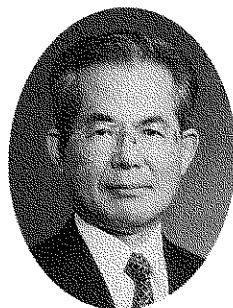


会長ご挨拶



(株)ニューガラスフォーラム 会長

松 村 實

昭和60年7月にニューガラスフォーラムが発足し、本年は15年目に入ります。

この間、国際政治面での冷戦構造の崩壊をはじめとして世界情勢は大きく様変わりし、経済面ではグローバルな市場経済化が急速に進展しいわゆる大競争時代となりました。一方、日本経済もプラザ合意による円高、バブルとその崩壊を経て、経済再生と競争力強化が課題となっています。

ニューガラス産業は、この間、着実に展開し、関連産業の発展に大きく寄与してきました。ニューガラスの振興を図る目的で設立されたニューガラスフォーラムも様々な活動を通じて、ニューガラス産業の発展にその役割を果たしてきました。

グローバルな大競争のなかで、我が国が国際的に強い産業をもつことが、経済再生のみならず、21世紀の我が国の経済発展に不可欠です。世界のフロントランナーとして位置づけられるニューガラス産業作りに努力することは、この産業に関わりを持つ我々の責務です。

このような背景の中で、ニューガラスフォーラムは平成9年度に定款を改正し、新たな事業項目として研究開発の推進母体として機能する事も役割に加えました。

これにより通産省の支援を受けて、平成9年度から3ケ年計画の「ニューガラスの高温物性測定評価方法の標準化」の研究開発を開始すると共に、同年度の補正予算により「情報通信用光機能材料創製技術」の研究開発を実施して参りました。

平成10年度には、ニューガラスフォーラム創設以来推進してきた国際ガラスデータベース INTERGLAD が高い評価を受けて、産業技術競争力強化のインフラとも言うべき知的基盤を構築するための「即効的知的基盤整備事業」として補正予算より受託し、ニーズが高いにも拘わらず、欠落したまま放置されているニューガラスの組成と物性の基礎データを整備する事業を開始しました。これは引き続き平成11年度にかけても継続して実施します。

加えて、平成9～10年度に実施した「コンジュゲートマテリアルの先導調査研究」をベースに、コンジュゲートマテリアルの持つ光機能に着目して情報産業分野に於いてその

早急な実用化を目指す「画像情報の実時間処理材料」の研究開発を，平成 12 年度のスタートを期して通産省住宅産業窯業建材課を通じて国家プロジェクトとして提案しております。

これら以外にも，省エネルギーや環境問題への取り組みなど，ニューガラスフォーラムが中核となって実施するにふさわしい研究開発プロジェクトは，多々あろうかと存じます。

この様な背景をふまえ，去る 6 月 3 日の第 12 回ニューガラスフォーラム通常総会に於いて，以下のような平成 11 年度事業計画の承認を頂きました。通産省のご指導はもとより，ニューガラスフォーラムの会員をはじめ関係各位のご理解，ご支援，ご協力を得ながら着実に推進いたしたく，引き続き宜しくお願い申し上げます。